

特集

若者は今、何を思うか



3月2日(金)から4日(日)までの3日間、奈良県十津川村の青年県外研修団(岩井信行団長ら5人)が新十津川町を訪れ、新十津川町青年協議会(深瀬直人会長、会員20人)と交流を深めました。

3日(土)には、ゆめりあで意見交換会が開かれ、両青年団が活動内容や課題について活発に話し合いました。

教育委員会

昨日から行動を共にして気心の知れた仲でしようからざっくばらんに話し合ってください。

神田 十津川村青年団のメインイベントは何ですか。



金森 吊り橋まつりとふれあい物語でしようか。



岩井 2年間、青年団長をした経験から言わせてもらいます。

村の行事は毎月1、2回あって、その実行委員会に青年団長が、若者の代表と呼ばれます。でも、実行委員会では、青年団にリーダーシップはなく、事務局をもっている村観光振興課や教育委員会をサポートするというのが大体のスタイルです。

問題は、青年団の想いと村の行事が、必ずしもリンク(連動)していないということです。例えば、年1、2回のイベントに向かって打合せを重ねていくなら、ときに



自分の意見が取り入れられることで自主的な意識が醸成されていくと思うんです。けれど、次々に行事がある状況では、青年団のやりたいことを村の行事に反映させていくのは難しいと感じています。



深瀬 新十津川では、夏のふるさとまつりが一番人の集まるイベントです。会員からスタッフを数人出して会議で意見は出しますが、正直なところ、決まったことの確認をしているだけという印象です。当日は、人数が少ない中で、自分たちで模擬店を出しつつ、事務局から求められる人数のスタッフを出さなければならぬので、両立しようとすれば、できることは限られてしまいます。

岩井 難しいですね。僕らは、村から45万円の補助金をもらっているのですが、村の行事にはことごとく応えていかなければならない、という感覚があります。逆に、それが僕たちの集まっている目的なんだという意識さえあります。僕はそれを払拭したくて、別に補助金はなくともいいと思っています。

自立しようと思っていたところ、きっかけがありました。十津川村の復興を応援したいという企業が「8万円を提供するから、滋賀で足湯をやって、災害のパネル展示を

特集

十津川村青年団 × 新十津川町青年協議会



して、十津川の物産を売ったらいよいよ」と青年団に声をかけてくれたんです。やってみたら、最終的に各自1万円くらい手元に残って…。十津川の持っているブランド力をうまく利用すれば、青年団の自主的な運営はできるのかなと思いました。

でも、この企画も団員の有志でやったんです。青年団でやろうとすると「利益団体ではないのではないか」などの保守的な意見は強いのです。

深瀬 自分の意志で参加する人を集めるわけですよ。しかし、参加者は固定化している。

岩井 そうです。

教育委員会 成人式でのPR活動

はどうしているのですか。

岩井 ここ数年は餅つきをしています。紅白餅を作って、新成人に持って帰ってもらっています。

教育委員会 それは青年団だけで実行したのですか。

岩井 はい。教育委員会からの提案ではなく、完全な持ち込み企画でした。当初の参加人数は3人しかいませんでしたが、成人式を見に来る若い子が自然と協力してくれて、ふたを開けてみると10人くらいになりました。

教育委員会 その場で、青年団の勧誘は？

岩井 していません。高校を卒業して村外へ出て、そのまま就職すると会う機会がなくなりますし、22歳で大学を卒業して役場に就職するまでにはブランク（間隔）がありますから。成人式で誘ってもあまり意味がない。それが正直な感想ですね。

深瀬 新十津川の成人式では、教育委員会主催の式典後に、新青協主催の交流会を開いています。そのときに、メールアドレスと勧誘メッセージを載せたカードを配っています。交流会後のテーブルにはほとんど残っていません。一応持って帰ってくれてはいるようですが、一向に連絡がないんです。青年団活動に興味がある人に



連絡先を書いてもらってもいるのですが、こちらから電話しても怪しまれたり、存在しない番号だったり、どうも首尾がよろしくない。そして、「学生だからここにはいない」という返答が一番多いです。

教育委員会 十津川では、郵送でチラシを出しているようですね。それはどういう人に送っているのですか。



植田 過去に1度でも青年団活動に参加してくれた方へ送っています。住所は、村内の方ならだいたい分かれますから。

教育委員会 過去に参加してくれたというのは、何か活動しているときに、団員ではないけれども手伝ってくれる人がいるということですか。友だちと一緒にやって来るような感じですか。



岡田 私はその口です。団員の友だちから声をかけられて1

度参加してみたいです。すると、なぜかハガキが毎回届くんです。何回も届くうちに、行ってみたいかなと思つて。そして行ってみたいから、結構楽しかったりして…。それで、またしばらく行かないでいると、ハガキがどんどん来るんです。行かなくても何か言われることもなく、気楽な感じで溶け込んでいきました。

教育委員会 気楽にというのはいいキーワードかもしれないですね。ところで、活動上の悩みに十津川は「女性が少ない」とありますが？

岩井 村内に女性はいるのですが、入団してくれる人が少ないです。でも、最近では、郵便局があつた（女性が多い）。そこにはお土産を



特集

十津川村青年団×新十津川町青年協議会

欠かさないようにしています。「青年団でスキーに行ってきたんですけど」などと言って渡しておきます。その子たちはまだ入団してきていませんが、団員の友だちが誘ったところ、飲み会には来てくれるようになりました。いずれ入団してくれると思います。

教育委員会 ということは、いろんな業種の団員がいるのです。新青協は、役場と農協以外の業種が少ないので…。

岩井 (勧誘の)連鎖がないのかもありませんね。
教育委員会 両町村の青年交流事業についてはどうですか。新十津川は最近2回ほど行けていませんが、十津川は毎回来てくれてますね。

金森 今回お世話になったので、ぜひ、少人数でもいいので来てほしいと思います。

松井 新青協の中でも話はあるんです。日程さえ合えば、ぜひ伺いたいと思います。

岩井 ありがとうございます。日程はこちらが合わせますよ。

教育委員会 十津川村青年団に入



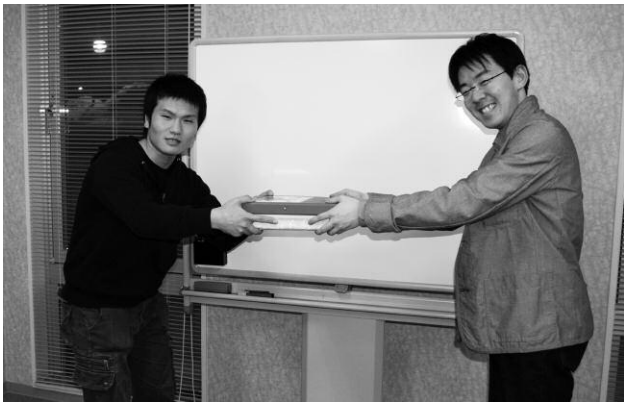
岡 今まで交流のなかった、村内のちょっと離れた地域の青

年と仲良くなれたのが良かったと思います。

植田 同級生や年の近い人との交流は今まであったけれど、青年団に入ってからはいろいろな世代の人と話ができて楽しいなと思います。

岩井 植田君とは16歳違いますからね(笑)

最後に「皆さんで見てください」と、十津川村青年県外研修団の金森副団長から新青協の深瀬会長に台風12号災害当時と復興状況を写真でまとめたファイルが手渡され、固い握手が交わされました。



母村十津川村への旅行を支援します

昨年9月、奈良県十津川村を襲った台風12号は、母村に大きな爪痕を残しました。

復旧、復興の歩みは着実に進んでいます。村の観光産業は、災害後の風評被害で大きく冷え込んでいます。このため村では、さまざまな手を打って、観光客の呼び込みを図っています。商工会は、村を応援するため、町の協力を得て、村へ旅行する方を支援することにしました。

この機会に母村を訪問し、復興の力添えをお願いします。

内容 十津川村を訪問し、村観光協会加盟宿泊施設で1泊以上した方に、ふれあい商品券3万円分をプレゼントします。

対象者 小学生以上の町民
対象期間 4月1日(日)〜平成25年3月31日(日)

申込方法 旅行する前に申し込みが必要。運転免許証や健康保険証など、身分を証明できるものを持参して商工会へお越しください。

申込期限 平成25年1月31日(木)



商品券の受取方法 旅行終了後、宿泊施設の領収書と宿泊施設を背景に申込者が映っている写真を提出してください。

※ツアー旅行の場合は、宿泊施設の領収書の代わりに、旅行代理店が発行した領収書と旅行行程表を提出してください。その他

○家族で旅行する場合を除き、必ず本人が申し込みにお越しください。

○町から助成を受けて村を訪問する方は申し込みません。
問合せ 商工会 ☎76・2571